

# 日々の祈り

2021年8月16日(月)~21日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・終戦を覚えて。この世界に主のまことの平和が実現するように。
- ・コロナウイルスや災害によって困難の中にある人々に、主の守りと支えがあるように。
- ・宮崎中部教会に連なる一人一人の歩みが、神さまの福音の恵みを証する歩みであるように。

16日(月)

ルカによる福音書 17章 10節

あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。わたしたちは、イエスさまの貴い命によって買い取られた僕です。その僕が主の命令に従って仕えるのは当然のことであり、それはしなければならぬことです。しかし、実際わたしたちには、命じられたことを成し遂げる力さえありません。わたしたちの主となって下さった方が、わたしたちに恵みを与え、力を与え、命を与え、共に歩んでくださることによって、わたしたちはやっと主のご命令に従って歩むことが出来るのです。そこまでして下さる主人を持つ僕は、まことに幸いです。

17日(火)

コロサイの信徒への手紙 3章 13節

互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦して下さったように、あなたがたも同じようにしなさい。

わたしたちは、互いに戒め合い、赦し合うことが求められています。なぜなら、わたしたちは共にイエスさまの十字架の死によって、神の御子の命によって、罪を赦して頂いた者だからです。人を赦すことはとても困難なことであり、わたしたちの努力や意志の力で出来ることはありません。しかし、イエスさまの罪の赦しの十字架の御前に共に立つことによって、ただ神の恵みの力によって、それは出来るのです。

18日(水)

マタイによる福音書 25 章 21 節

主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』

僕が主人の命令に従うことは、当たり前のことです。そこで僕が報酬や見返りを求めることは筋違いな事です。しかし、わたしたちの主人は、神さまは、わたしたちが心から忠実に仕えるなら、それを大いに喜んで下さり、さらに多くのものを与えて下さり、主人の大きな喜びの中に、僕を招いて下さるようなお方なのです。今日のわたしたちの歩みが、神さまの忠実な良い僕としての歩みとなりますように。

19日(木)

詩編 30 編 5 節

主の慈しみに生きる人々よ／主に賛美の歌をうたい／聖なる御名を唱え、感謝をささげよ。

主の慈しみに生かされている人々、主の恵みを受けて歩んでいる人々がなすべきことは、主に賛美の歌をうたい、聖なる御名を唱え、感謝をささげることです。神さまを礼拝することです。ここに、神さまの呼びかけに対する応答があり、神さまとの親しい喜びの交わりがあります。これこそ、神さまにかたどって造られた人間の、本来の姿です。

20日(金)

レビ記 13 章 45~46 節

重い皮膚病にかかっている患者は、衣服を裂き、髪をほどき、口ひげを覆い、「わたしは汚れた者です。汚れた者です」と呼ばねばならない。この症状があるかぎり、その人は汚れている。その人は独りで宿営の外に住まねばならない。

次の主日礼拝の御言葉です。重い皮膚病の最大の苦しみは、病そのもの以上に、「汚れた者」とされて、神さまを共に礼拝する共同体の外で生きなければならないことです。そして、一人の人間のまことの回復、まことのいやしとは、何よりもまず、神さまを礼拝する者として神さまの御前に立つことが出来るということなのです。そして、神さまを共に礼拝する兄弟姉妹との交わりに生きることが出来るようになるのです。

21日(土)

ルカによる福音書 17 章 14~15 節

イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまの憐れみを求めた 10 人の重い皮膚病の人たちが、イエスさまの御言葉に従うと、その体が清められたという出来事が語られています。すると、その中の一人だけが、神さまを賛美しながらイエスさまの所に戻ってきました。イエスさまはそれを「あなたの信仰」だと言われます。神さまの恵みを受けて、それを喜び、賛美し、神さまを礼拝し、感謝の応答をすることこそ、信仰なのです。聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』